

市民提案型国際キャリアアップ事業実施レポート		作成日	2007年 7月 11日
主題 (テーマ)	ポメリー訪問にて	氏名	芦刈 弓子

シャンパーニュ地方、ランスに大手メーカー、ポメリーはある。シャンパンメーカーの中では第2位の規模を誇る。

大きなお城、立派な門構え。圧倒されながらも足を踏み入れたポメリーで出会ったのはフランスの人たちの伝統を大切に作る心、こだわり、美や芸術に対する意識の高さ、そして、チャーミングなフランス女性でした。

3月～11月までカーブ全体にはオブジェが飾られてある。世界中からアーティストを呼んで作ってもらってるらしい。今年のテーマは「空間を使う」ということ。中には日本人の作品も...

ポメリーは"マチュザレム"(9入りボトル)以上は造らない。他のメーカーは、マグナムボトルを移し変えて大きいサイズのボトルを出荷するらしいが、それだと味が落ちるのでやらないらしい。

また、ルミアージュは、ジェロボワム以上は手作業でやるのだと。機械でやるほうが時間も人件費も節約になるが、昔からのこの伝統的な作業を壊したくないと。

ポメリー生産量の約60%が輸出され、最初に出荷する都市の名前がカーブに書かれている。日本ではKYOTOの名前が。

1874年のヴィンテージのボトルが1本だけ飾ってありました。マダムポメリーが初めてブリュットを作った年のもの(ということはシャンパンで初めてブリュットが作られた年)「売り物にはなりませんよ。おいしくないですしね。でもこれは私たちの宝物です。」と語ってくれました。

カーブの最後には「ルイーズ」のレリーフが。娘さんでもマダムポメリーでもなく、これは「ルイーズ」というキュベのイメージだそうです。

ちなみにこれがマダムポメリー。愛した色は青。

丁寧な日本語で案内してくれた「海野さん(写真右)」旦那様は日本人だそうです。

